

薬理学

Pharmacology

シリーズ責任者：薬理学 教授 松本 直樹

1. シリーズ概要・学習内容

最近の薬物治療の発展は目覚ましく、多くの患者がその恩恵を受けている。しかし薬物は人体にとって異物であり、薬効とは裏腹に有害作用、副作用を持っている。この観点から、薬物を使用する際、医師はその薬効を最大限に発揮させ、有害作用を最小限にすることが要求される。そのためには合理的薬物治療の知識が重要である。

そこで、臨床薬理学の基礎と生体内情報伝達系の基礎を学習した後、生体の重要な機能に関与する自律神経系を取り上げる。その生理学的機能、生化学的機能を踏まえ、神経伝達物質の受容体に対する作用薬、拮抗薬の代表的薬物の薬理学的作用メカニズムを学習する。生体にとって大切な心・血管系、消化器系などの臓器を支配するこれら交感神経系、副交感神経系、さらに運動神経系に作用する薬物の薬理作用および有害作用について学習する。

2. 到達目標

1) 一般目標

将来、医師として薬物療法を行う際に必要な薬物の作用と生体反応について基本的な知識を身につける。

2) 行動目標

(1) 薬物動態学、薬力学など、臨床薬理学の基本的事項を説明できる。

(2) 薬物療法に関連する事項（処方箋、服薬アドヒアランス、有害作用、薬物アレルギーなど）について基本的事項を説明できる。

（最終的に後期の実践医学講義内容で補完される。）

(3) 受容体と細胞内情報伝達系について説明できる。

(4) 神経伝達物質とその薬理学的作用について説明できる。

(5) 交感神経系作用薬について説明できる。

(6) 副交感神経系作用薬について説明できる。

(7) 自律神経節作用薬について説明できる。

3. 学習上の注意点

講義前の教科書による予習が重要。授業プリント、または教科書による復習は必須。

また、平行して行われる実習講義、実習の内容も補完関係となっており、総合的に学習することが求められる。

4. 教科書・参考書

教科書：『薬理学』グッドマン・ギルマン著（廣川書店）

『NEW 薬理学 改訂第7版』田中・加藤編（南江堂）

『標準薬理学』飯野・鈴木編（医学書院）

参考書：『医系薬理学』遠藤・橋本・後藤・金井編（中外医学社）

（書評）基礎薬理学から臨床薬理学まで網羅されている。

『カッツング薬理学』Bertram D. Katzung 著（丸善書店）

（書評）薬理学の新規情報を含んだ内容である。

『はじめの一步のイラスト薬理学』石井邦雄著（羊土社）

（書評）薬理学の基礎・知識が図解されている。

『ラング・デール薬理学 原書8版』（丸善出版）

Rang HP, Ritter JM, Flower RJ, Henderson G 著，渡邊 直樹（監訳）

（書評）基礎薬理学から臨床薬理学まで網羅されている。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	90 (%)	前期末試験期間中に論述試験を実施する。
授業態度		10 (%)	授業態度は、随時、指導に利用する。

※ 随時試験を予定している。

※ 実習講義、実習内容は、本講義内容と不可分なため、その内容が出題されているようにみえることがある。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
薬理学	教授	松本 直樹	原則として、 金 15時-16時	医学部本館5階 薬理学	内 3531
薬理学	特任教授	飯利 太郎	火 14-15時	同上	同上
薬理学	准教授	武半 優子	木 以外の 14-17時	同上	同上